



3月 例会 ご案内

第53回 総 会



今年も対策をとりながら総会を開くことになりました。会員の皆様も発熱など体調に十分留意され、参加をお願いします。

政府は3月13日からマスクの着用について「個人の判断に委ねる」との決定をしましたが、今総会では史蹟を守る会の高齢者が多い実態を配慮し、マスク着用にての参加としますのでご協力をお願いします。

◆ 場 所 平群町総合文化センター（研修室1A・1B）

令和5年度の総会を、総合文化センター2階の研修室（1A・1B連結）で開催します（6P2F図参照ください）。

（統一地方選挙の関係で大ホールの使用不可の為）

総会後は、文化ホール屋内外の指定の場所で各自食事をとり、午後は葛本隆将 学芸員による下記講演を受講します。

主 題 「絵図から読み解く地域の歴史」

副 題 ～椿井周辺の宗教世界～

◆ 日 時 2023（令和5）年3月18日（土曜日）

- ・会場準備（役員用机・椅子配置等） 9：00 ～ 9：30
- ・受付・集金（会費） 9：30 ～10：00
- ・総 会 10：00 ～11：40
- ・昼 食（弁当など各自用意） 11：40 ～13：00
- ・講 演 13：00 ～14：30
- ・会場後片付け 14：30 ～15：00頃

★雨天の場合でも総会・講演は実施します。

※1 総会当日に議案書・会員名簿・烏兔101号を地区幹事（幹事不在の方は個人）に配布します。

※2 総会委任状をこの会報に同封しています。

ご都合が悪く総会欠席の方は委任者名を自署の上、3月14日（火）までに河本宛に投函願います。（14日消印有効）

地区の幹事様へおねがい

日頃より、史蹟を守る会の幹事として各地区の会員の方々との連絡調整にあたって頂きありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

本年も総会の日時が近づいてまいりました。年度末にあたってご苦勞をおかけしますが下記の事項についてよろしくお願ひします。

I. 令和5(2023)年度(令和5年3月～令和6年2月)会費3,000円の集金について

- ・本会報と共にお届けする「領収書」の右端を切り離して、集金時に会員さんにお渡し下さい。
- ・会費は、3月18日の総会当日に、受付横の会計係までまとめてお渡し下さい。

※ 休(退)会を申し出ている方の領収証はありません。

II. 令和5(2023)年度の名簿作成について

現在、令和5年度の会員名簿を編集中です。

下記の事項について、未連絡の地区は3月10日までに河本までご連絡下さい。

- ①「2023年度の地区幹事」様を決めてご連絡ください(未連絡の所)
- ②新会員・休(退)会者が、分かっているらばご連絡下さい。
- ③会員の住所変更などがあればご連絡下さい。

連絡先 河本雄治 携帯 080-6112-3406 E-mail candynogg@kcn.jp

会員の皆様へおねがい

I. 総会準備作業の応援のお願い

総会資料(議案書・会員名簿)の印刷、製本、仕分けを次の通り実施します。

3月14日(火) 午前9:15～午後1時

(都合の良い時間帯においで下さい)

作業場所: 総合文化センター 1F・中会議室2(駐車場側入口、入った右)

※6P図参照

II. 総会当日の会場設営作業応援のお願い

今回は平群町総合文化センター2階の研修室1A・1Bで総会を実施します。

総会当日[3月18日(土)] 9:15から椅子配置、名札貼付、音響装置配置など総会会場準備をします。

以上、ご都合のつく会員の皆様のお手伝いをお願いします。

2月例会報告<2023年2月12日(日)>

☆☆☆ 大和郡山城下町をめぐる ☆☆☆

当日は、2月とは思えない暖かい、歩いていると汗ばむくらいの陽気の一日でした。

J R郡山駅前に集合し、まず会長の挨拶があり「25年前に訪れたときは八幡宮で新年会をした。参加者は75人いた」とエピソードが語られ、本日の行程説明と郡山の歴史やその中に登場する主要人物等の紹介がされました。また、会員から、この駅が「郡山」で福島県の「郡山」と区別するためになぜ「大和郡山」としなかったのかについての話が披露されました。この後、会長は体調不良のため車での移動に切り替え、本隊は最初の訪問地「外堀緑地」へ向かいました。緑地内を抜け次の訪問地「やくおんはちまんぐう薬園八幡宮」に着き、社務所の方からの説明を受けてご本尊を開帳していただきました。ここでは、会員から「薬園と冠がついているがこの地に薬園が有ったのですか」との質問がされましたが、「当初は平城京南にあった薬草園に祀られていたが、その後現在の地に移された」とのことでした。

次の訪問は「源九郎稻荷神社」です。ここは、兄頼朝と仲違いした源九郎判官義経を陰ながら守ってきた武将佐藤忠信はこの神社の白狐の化身で、義経が奥羽に下る別れの時に源九郎の名を与えられたと伝えられ、その後、豊臣秀長が城の守護神として祀った神社といえます(神社略記による)。境内には歌舞伎で「源九郎狐」を演じた歌舞伎俳優が訪れるのか、中村勘九郎・七之助・市川猿之助などの名が入った幟があがっていました。

源九郎稻荷神社の隣にある洞泉寺は中に入れませんでした。その門前で、会員から「この辺りは洞泉寺遊郭で賑やかだった時代があり、故郷へ送金するために郵便局に列ができた程だったらしい」との話がありました。この後、元遊郭で当時でも珍しかったという三階建ての町屋建築である「町屋物語館」に立ち寄った後、染め物職人が集まったという紺屋町の街並みを通りながら豊臣秀長の菩提寺「春岳院」に向かいました。



郡山駅前にて



外堀緑地北門



薬園八幡宮での説明



源九郎稲荷神社
歌舞伎俳優幟



町屋建築

この「春岳院」も見学は出来ませんでした。郡山駅での会長の話では、下見の時に連絡をしたら25年前のことを覚えておられたとのことでした。大森担当からは境内には鎌倉時代の七重の塔や2面石仏があるとの説明がありました。

郡山城跡では昼食をとった後、天守閣からの郡山市内を遠望し、石垣に組み込まれたさかさ地蔵を見て、城内の2～3分咲きになった白梅や紅梅を鑑賞しながら城跡を後にしました。

次の永慶寺は柳沢家の菩提寺で二代吉里が甲府より国替えになったとき永慶寺も移転しているとのことでした。ここでは自由散策とし境内を鑑賞、たくさんのくちなしの黄色い実が印象的でした。

最後の訪問は「浦上切支丹流配記念碑」が残る大和郡山カトリック教会です。九州長崎の浦上キリシタン信徒がはるばる奈良の郡山藩に預けられたことに、どういう思いで九州から奈良への旅をしてきたのだろうと当時に思いを馳せました。

以上で1日の行程を無事終わり、来月の総会についての案内がされた後、近鉄郡山駅とJR郡山駅に向かう人に別れ解散しました。参加の皆さんお疲れ様でした。

(参加者：34名)



春岳院



郡山城跡で昼食



紅梅



くちなし



永慶寺



浦上切支丹流配記念流碑



町屋物語館



薬園八幡神社にて



郡山城跡天守閣
さかさ地蔵

みんなのひろば

【 毎日のささやかな楽しみ 】

朝刊をとってきてまず見るのが、「余録」。直近のニュースを思い出し
ては今日はどんなテーマかなと思ひめぐらせる。当たれば、その日は一
日良いことがあるような気になる。

次に目がいくのは、「毎日ことば」欄だ。ジャンルが4つ。

- ① 漢字の読み 例えある日の漢字は『雪冤』
「せつえん」と読み意味は、無実の罪の疑いを晴らすこと、とある。
- ② 間違い探し（どこをなおす？）
『高齢ドライバーが逆送して事故を起こしたというニュースを見て』
の中に間違いがある、どこか？という設問。正解は「逆送」ではな
く「逆走」。
- ③ 由来の話 太平洋の『太』の由来は？
パシフィックの訳語としての「太平」からきているので「太」を使う。
- ④ 雑学的なもの 干支でいうと「卯年（うどし）」？それとも「ウサギ年」？
暦として読む場合は「うどし」が適切とのこと。

さて、ここで問題です！ 下の写真の熟語はなんと読むでしょうか？

（額のガラスの反射で、ちょっと見にくくてすみません）



信貴山のとある料理旅館の一室にかけられていまし
た。居合わせた誰も読めないなので、中居さんに助け
を求めたところ「わらく」と読むそう。

こんな漢字、見たこともないので角川の詳解漢和
大字典をひいてみたが載っていない。

因みにワードで「わ」で検索したら「罽」があっ
た！ この字の由来をご存知の方、ぜひ教えて下さ
い。

（繁田記）

平群町総合文化センター会館図

